

6. 言語のメカニズムとその障害

★ 聴く・話す (口頭言語)

6-1. 症状 (臨床神経心理学・高次脳機能障害学)

6-1-1. 失語症 aphasia : 「聴く」「話す」「読む」「書く」にわたる言語機能の障害
(「読む」の障害→失読 alexia ; 「書く」の障害→失書 agraphia)

6-1-2. 失語類型 (「症候群」としてグループ化・タイプ分けすると...)

- a. ブローカ Broca 失語 (運動性 motor / 表出性 expressive / 非流暢性 non-fluent)
 - b. ウェルニッケ Wernicke 失語
(感覚性 sensory / 受容性 receptive / 流暢性 fluent)
 - c. 伝導性 conduction 失語
 - d. 超皮質性運動 transcortical motor 失語
 - e. 超皮質性感覚 transcortical sensory 失語
 - f. 混合型超皮質性 mixed transcortical 失語 (言語野孤立症候群)
 - g. 健忘性 amnesic 失語 (失名辞 anomic 失語)
 - h. 全 global 失語
- ※Wernicke-Lichtheim 図式→鑑別診断
- g. 語義 Gogi 失語 (→意味性認知症 semantic dementia)

6-1-3. 言語症状・症候 (個々の側面に注目すると...)

- a. 発語の障害
失構音 aphemias (アナルトリ anarthria)
再帰性 recurring 発話, 残語; 反響言語 echolalia
- b. 喚語の障害
喚語困難・語健忘・呼称障害
錯語 paraphasia
音韻性=字性錯語 「時計」→「トテイ」
語性錯語 「タバコ」→「マッチ」
新造語 neologism, ジャルゴン jargon
- c. 統語の障害
失文法 agrammatism
- d. 聴覚的理解の障害
- e. 復唱の障害
- f. (読み書きの障害) (計算の障害)

6-1-4. 右半球コミュニケーション障害

失プロソディ aprosodia, 語用論的機能 (pragmatics) 障害

6-2. どのように調べるか (神経心理学的検査) / 介入するか (“言語聴覚療法”)

6-2-1. 失語症検査

- a. 標準失語症検査 (SLTA)
標準失語症検査補助テスト (SLTA-ST)
- b. WAB 失語症検査日本語版 (WAB)
- c. 実用コミュニケーション能力検査 (CADL)
- d. Token Test 聴覚的言語理解・統語理解

6-2-2. 言語聴覚療法

- a. 行動変容理論 (学習)
- b. 刺激・促進理論 (促進)
- c. 機能再編成 Luria
- d. 認知神経心理学的観点

6-3. メカニズムの仮説 (認知神経心理学)

6-3-1. Wernicke-Lichtheim 図式 (古典的失語モデル)

6-3-2. 意味と語彙と音韻の関係 (さまざま)

ロゴジェンモデル (“箱と矢印” モデル)・二重経路 dual route モデル

※深層 deep 失語→復唱での意味性錯語

トライアングルモデル (並列分散処理モデル)

6-4. 脳の構造と機能 (認知神経科学)

6-4-1. Wernicke 野, 弓状束, Broca 野 (シルヴィウス裂周囲 perisylvian)